

令和2年度授業改善推進プラン

清瀬市立 小学校第3学年

	授業における課題や学力調査資料から見えた課題	授業改善のための具体策	成果と課題（年度末）
国語	<ul style="list-style-type: none">・漢字の定着については、約半数程度の児童に課題がある。・文章を書くことについては、25％程度の児童に課題がある。・学年の実態として、話すことが苦手な児童は15％程度、相手の話を正確に聞くことは、30％程度の児童に課題がある。	<ul style="list-style-type: none">・新出漢字の学習では、筆順や成り立ちなどを確認して覚える。・朝読書では、物語の本を1冊最後まで読み切ることができるように指導する。・興味のあるテーマについてスピーチを行う。授業では、一斉読みや一人読み、表現読みなどの音読を取り入れ、言葉の語感を覚える。黒板の板書を最後まで視写をさせる。・詩の暗唱に取り組む。・ある程度の長さの文章を視写させることで、文章を書く習慣や文型を身に付けさせる。	
社会	<ul style="list-style-type: none">・公共施設や交通などを利用する児童が少なく、体験からの学びが少ない。そのため、指導事項と体験をつなげて考える事ができる児童が少ない。	<ul style="list-style-type: none">・体験的な学習や、映像教材を扱う機会を増やす。・農家見学、スーパーマーケットの工夫についてゲストティーチャーを招いてのインタビュー、警察署、消防署見学などを実施し、実際に働いている方々から講話を聴くことで、働く人々の思いに触れる機会を増やす。	
算数	<ul style="list-style-type: none">・東京ベーシックドリル診断シートの結果から、単位換算の問題の正答率が2割程度と低い。・「たし算、ひき算の筆算」では、繰り下がりのある減法の筆算で、繰り下げが必要のない場面でも、繰り下げたり、波及的繰り下がりの筆算では正確に繰り下がりの手順を踏めない児童が2割弱程度いる。東京ベーシックドリル診断シートの結果から繰り下がりのひき算が4割に満たない。数と計算の領域が特に弱いので、繰り返し練習を取り入れていき基礎力をつける。	<ul style="list-style-type: none">・1mが100cmであることなどを数量関係領域で繰り返し指導し、ノートに位を揃えて書かせることで習熟させる。習熟度別少人数指導によって個別指導を充実させる。・計算の仕方を位毎に整理して、数カードを使って視覚的に示し、繰り下がりの操作と一致させて指導していく必要がある。その際、児童自身が数カードを操作することを通して確実に身に付けさせる。少人数に分け段階に応じた個別指導を徹底する。	
理科	<ul style="list-style-type: none">・観察の際、対象物を細部まで見て表現することが苦手である。・重要用語の正しい使い方が定着していない。	<ul style="list-style-type: none">・視点を与えて観察させる。具体例を示してからかくようにさせる。・重要用語の正しい使い方を繰り返し指導し、定着させる。	
総合	<ul style="list-style-type: none">・身近な施設、物事、事柄について、「なぜ？」と疑問をもつことが少ない。・自分の課題に合わせて調べる際、体験や現地調査に対する意欲がある児童は16％と低く、インターネットでの情報収集に頼りがちである。・文章を書くことに課題があるため、まとめの文章が伝わりにくい。	<ul style="list-style-type: none">・身近な施設、物事、事柄について範囲を絞って課題を立てさせる。そのために写真などを用いた具体的な資料を提示する。・市役所の方からの講話、清瀬市の緑の保全のための作業の手伝い、地域巡り等を通して、現地調査を行う機会を増やす。・国語の学習を通して、文章を書く力を高めさせる。	
音楽	<ul style="list-style-type: none">・副次的な旋律、伴奏を聴いて声を合わせて歌うことが苦手である。・リコーダーの演奏において、音色や響きに気を付けて演奏する技能が不十分な児童が5割程度いる。・音楽を形作っている要素などについて理解が十分でない児童が7割程度いる。	<ul style="list-style-type: none">・副次的な旋律のある歌唱曲に触れる機会を増やす。・少人数でリコーダーを演奏する活動を取り入れることで、音色や響きに気を付けて演奏できるようにする。・新しい曲に取り組む際に、音符や休符、記号や用語について、楽曲と関連付けながら繰り返し指導する。	
図画工作	<ul style="list-style-type: none">・絵や立体、工作に表す活動を通して、材料や用具の扱いについて理解し、意欲的に活動する児童がほとんどだが、道具の扱い方が苦手な児童が1割程度いる。・感じたこと、想像したことや用途などを考え、かたちや色、などを生かしながらどのように表したらいいか思い付く児童が難しい児童が2割程いる。	<ul style="list-style-type: none">・道具の扱いでは、授業の初めに安全面の確認をし、安全な扱い方について掲示して常に確認できるようにしておく。・どのように表したいか考えながら活動する姿を観察し、つぶやきを捉える、作品を見とるなどして児童の状況把握を行い、適宜指導を行う。・ワークシートの活用をし、児童の思いやイメージを活動につなげられるようにする。	
体育	<ul style="list-style-type: none">・姿勢を維持できない児童が多い。・自分の体を思っている通りにコントロールできていない児童が多い。・競争（走）で勝負にこだわりの、勝敗を受け入れることが難しい児童が若干名いる。・7月に実施した反復横跳びの平均は24.5回であり、都の平均より8.7回低かった。	<ul style="list-style-type: none">・コオーディネーショントレーニングを通して、体をスムーズに、イメージ通りに動かすことができるようにする。・勝負の結果だけでなく、仲間と励まし合ったり、作戦や運動の工夫を考えたりすることなども、運動の良さであることを指導する。・体力の維持向上のために、休み時間の全員遊びを実施するなど、外遊びを奨励する。	
外国語活動	<ul style="list-style-type: none">・ALTの発音を聞いて、真似て言うことができない児童が多い。・初めて聞く語句や、基本的な表現に苦手意識をもつ児童が多い。	<ul style="list-style-type: none">・手本の発音をゆっくり聞かせたり、一人ではなく大勢で一緒に発音させて慣れさせたりする。教室に英語の環境をつくったり、身近なものを英語で言うなどして親しませるようにする。・必要に応じて、日本語で解説を加えて授業を行う。	
道徳	<ul style="list-style-type: none">・道徳的価値を、自分の生活の中で生かすことが難しい児童が多い。	<ul style="list-style-type: none">・授業で実生活との関連を考えさせたり、実生活の中でも道徳の授業で学んだことを取り入れた指導をする。また、何か問題が起こったときに道徳の授業でやったことを振り返る。	

※ 枠の大きさは適宜調整して、1枚に収まるように作成してください。